

社会福祉法人 天真会

令和2年度 無限の可能性向上プログラム（自園評価）



園名：ひがしふくま真愛保育園

実施日：令和2年10月20日

第1章 総則

	総合 ポイント	考察
1 子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができています。	4.5	子どもの最善の利益を考慮し人権に配慮した適切な保育を行い、又それを説明できるように職員間で定期的に確認し合っている。
2 地域社会との交流や連携を図り、保育の内容を適切に説明するよう努めている。	4.1	
3 職務上知り得た子どもや保護者に関する情報について、正当な理由なく家族や友人にも、話さないようにしている。また、保育士でなくなった後においても同様であることを知っている。	4.7	
4 SNS、ブログ、ツイッター、FACEBOOK等に、児童や職員、園の情報を流出しないということを理解している。	4.9	
5 あなたの園の苦情解決システムについて説明できる。	3.8	
6 自己判断で回答せず責任者への報告をし、解決のための話し合いができる。	4.4	

第2章 保育の内容

	総合 ポイント	考察
7 子どもの発達には、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。	4.6	一人一人の発達を理解し丁寧な保育をするために、会議等を通して情報共有し、共通理解を深めることが出来ている。
8 子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮して保育をしている。	4.3	
9 大人との信頼関係を基に、身近な環境を通じ成長することが乳幼児期の発達の特性であることを理解している。	4.6	
10 心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握している。	4.4	
11 子どもの発達過程のおおむね8つの区分を理解し、一人一人の発達に合わせ援助していくことの重要性を理解している。	4.0	
12 発達過程に「おおむね」がつくことで、個人の発達には幅があり、前後の年齢につながりを持って成長していることを理解している。	4.3	

乳児保育

	総合 ポイント	考察
13 ひとりひとりの育ちに合わせ、家庭と連携しながら離乳食を進めている。	4.9	子どもの気持ちを受容、傾聴、共感、応答するなどを通して、子ども達が安心して過ごすことができる環境を整えている。そのため、子ども達も様々な活動に、意欲的に取り組む姿がみられる。
14 抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳している。	4.6	
15 おむつ交換は、やさしく声をかけながら行っている。	4.7	
16 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保している。	4.8	
17 喃語には、ゆったりとやさしく応えている。	4.6	
18 しぐさや声や動きを介して発する要求を察知し、それに応じた適切な対応をしている。	4.8	
19 子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。	4.6	
20 制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人一人に合わせた対応をしている。	4.1	
21 日々の生活の中で、子どもが安心感と自己肯定感を持てるような温かい言葉かけをしている。	4.6	
22 子どもの頭を飛び越えて、大きな声で注意や指示をしていない。(緊急を要する時は除く)	4.5	
23 いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保している。	4.6	
24 保育所保育は「養護と教育」が一体となって展開されることに留意している。	4.3	
25 養護と教育は、子どもの生活や遊びを通して相互に関係を持ちながら、総合的に展開されることを理解している。	4.3	
26 「養護」は子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために、保育士等が行う援助や関わりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解している。	4.4	
27 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。	4.5	

養護

〈生命の保持〉

- 28 登園してくる子どもに、あいさつをしながら、視診・触診をして健康状態を確認している。
- 29 保護者から健康状態の申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖、ぜんそくなどの有無などの既往症について、すべての職員に対して周知するとともに、その発症時の対応についても保護者と話し合いがなされている。
- 30 毎日の清掃のほか、布団の消毒や乾燥を定期的に行っている。
- 31 玩具や砂場の消毒、園庭の危険物の排除や固定遊具の点検などを常に行っている。
- 32 各部屋の採光、温度、湿度、音、換気に配慮している。単に一定の温度に保つだけでなく、夏は外気温との差を5℃程度に保つなどして、子ども自身の環境順応性を失わせないようにしている。
- 33 一人一人の排泄間隔を把握し、トイレに行くことをせかしたり強制したりせず、一人一人のリズムに合わせている。
- 34 登園時、泣く子どもの状況に対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしている。
- 35 登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。

総合
ポイント

- 4.8
- 4.6
- 4.3
- 4.6
- 4.3
- 4.5
- 4.7
- 4.8

考察

施設内の設備や屋外遊具等の点検は定期的を実施している。
新型コロナウイルス感染対策として、清掃、園内外の消毒、オゾン発生器での園内消毒を毎日実施している。
登園時の受け入れの際は、健康状態を視診、検温等の健康観察を実施している。
戸外遊びについては、その日の気温や熱中症指数、pm2.5等の数値を確認し、活動の時間を設定し、子ども達が安心して遊べる環境づくりに努めている。

教育

健康

- 36 衣類の着脱にあたっては、自分でしようとする気持ちを大切に、励ます、褒めるなどして、着脱への意欲が持てるよう必要な援助を行っている。
- 37 戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている。
- 38 友だちと一緒に体を動かすことを楽しめるように働きかけている。
- 39 健康な生活のリズムを身に付けるよう、子どもの一日の生活の流れを考えながら保育している。
- 40 戸外の活動の後や、食事の前、排泄の後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう援助している。
- 41 食事、排泄など、生活に必要な活動の仕方を身につけるよう、働きかけている。
- 42 衣類の着脱を自分でやろうとしている子どもの気持ちを大切にしている。
- 43 危険に気づいて行動できるよう、安全についての心構えを日頃から話し合っ共有している。

総合
ポイント

- 4.6
- 4.7
- 4.6
- 4.7
- 4.8
- 4.7
- 4.7
- 4.7

考察

新型コロナウイルス感染症対策として、手洗いや手指の消毒の仕方を子ども達に伝えたり、衛生活動の励行を図っている。
一人ひとりの発達に応じて必要な援助・配慮を行いながら、子ども達が主体的に取り組めるような関わりを促していくよう努めている。

人間関係

- 44 子どもが保育士や友達と過ごすことの喜びを感じることができるような配慮をしている。
- 45 子ども同士が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気付くように援助している。
- 46 友達との関わりの中で、友達の良いことや大切さに気付くようにしている。
- 47 園生活の中で、順番を守るなど、きまりの大切さを理解できるように、丁寧に説明している。
- 48 身近な友だちとの関わりを通し、相手を思いやり、譲り合う気持ちを身に付けるよう援助している。
- 49 家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちを育てている。
- 50 園生活の中で、自分でできたという充実感を味わえるような体験を取り入れている。
- 51 友だちと一緒に喜んだり、悲しんだりすることができる機会をつくっている。
- 52 異年齢児の交流ができる保育環境を作っている。
- 53 外国の人や文化の違う人に親しむ機会を作っている。
- 54 友だちと一緒に一つのことをやり遂げることにより、達成感が味わえるような機会をつくっている。
- 55 良いことや悪いことに気付き、考えて行動することができるように配慮している。
- 56 様々な活動を通して、共同の遊具や用具を大切に使う気持ちが育つように配慮している。
- 57 高齢者や地域の人と関わり、親しみや感謝の気持ちを味わうことができる機会をつくっている。

総合
ポイント

- 4.8
- 4.4
- 4.6
- 4.6
- 4.6
- 4.6
- 4.6
- 4.5
- 4.4
- 3.8
- 4.6
- 4.4
- 4.4
- 4.2

考察

日頃の保育活動を通して、ケンカなどのトラブルが起こったとしても、寄り添い、お互いの思いを言葉にし、お互いに伝え合うことを繰り返していきながら、自分を大切にすることが、他者を思いやる気持ちなどが芽生え、関係が深まっていくことを大切にしている。
地域行事などへの参加を通して、更に地域の方との交流を深めていきたい。

環境		総合 ポイント	考察
58	保育士が、季節感を取り入れた生活を楽しめるような取り組みや、感じ取る感受性を大事にしている。	4.4	<p>生き物を飼育したり、野菜を栽培し、食材をいただく体験などを通して、生命の尊さを感じる体験を実施している。</p> <p>日常の遊びの中で、数量や図形、文字等に興味、関心を抱けるような関わりを意識して行っていきたいと思う。</p>
59	草花遊び・泥んこ遊びや雪遊びなど、自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	4.6	
60	季節に応じた伝統行事に触れる機会を大切にしている。	4.5	
61	気候や気温の変化で服装や、生活の仕方が変わることにより気付くよう配慮することができる。	4.6	
62	園外保育で、公共機関などを利用し、地域に興味を持てるようにしている。	4.2	
63	子どもが身近な物との関わりや愛着を深め、自分から大切にしようとする気持ちが持てるように、保育士がその物に応じた関わり方や扱い方、片付け方を繰り返し丁寧に伝えている。	4.2	
64	身近な自然を通して、その美しさ、その不思議さなどに気付くことができるようにしている。	4.4	
65	心の安らぎや、豊かな感情を体験できるように、子どもと自然との触れ合いを大切にしている。	4.4	
66	土、砂、水などの自然に触れて過ごしたり、遊びに取り入れれたりする中で、好奇心や探究心、思考力が生まれるようにしている。	4.4	
67	身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり大切にしたり、作物を育てたり、味わったりするなどして、生命の尊さに気付くようにしている。	4.4	
68	身近な自然事象に触れ「どうして」や「なぜ」といった疑問に対して、図鑑や関連する絵本などを用意したり一緒に調べたりしている。	3.8	
69	日常生活や遊びの中で、数量や図形などに関心を持つよう工夫している。	3.7	
70	身の回りにある簡単な標識や文字に関心を持つよう工夫している。	3.7	

言葉		総合 ポイント	考察
71	正しく、美しい言葉で子どもに話しかけている。	4.0	<p>朝の登園時は、挨拶を交わしながら、気持ち良く一日を過ごせることを大切にしていきたい。</p> <p>子ども達に語り掛ける言葉は、正しく、丁寧で、優しいトーンを心掛けている。</p> <p>絵本の読み聞かせの中で、様々な言葉やその意味を知っていきながら、身近な人と楽しんで会話をしている姿がみられる。</p>
72	子どもの伝えたい気持ちを言葉だけでなく、身振りや表情、仕草などでも理解し応答することができる。	4.3	
73	子どもがしたいこと、してほしいことを話しているとき、最後までゆったりと聞くよう努めている。	4.4	
74	子どもが見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしている。	4.4	
75	子どもが人の話を注意して聞くことで、人の話に共感することや、話の内容を理解することができるように関わっている。	4.4	
76	基本的な生活習慣に基づいたあいさつ「ごめんなさい」「ありがとう」など、生活に必要な言葉をいつも使えるように保育している。	4.5	
77	子どもたちの興味や発達過程に応じた絵本や物語を選んでる。	4.6	
78	日常生活の中で、文字や記号のやりとりのある遊びを楽しめるよう工夫している。	4.1	

	総合 ポイント	考察
79	4.3	保幼小接続の大切さについて、職員間で話し合いながら接続カリキュラムを作成する事ができた。今後も就学を迎える子ども達には、進学する期待を持てるような関わりをしていきたいと思う。一人ひとりの発達を理解しながらも、必要に応じて関係機関との連携を図り、保護者と共に、子ども達の育ちを見守っていくことを大切にしていこう。
80	4.4	
81	4.5	
82	3.7	
83	4.3	
84	4.4	
85	4.3	
86	4.1	
87	4.1	
88	4.4	
89	4.6	
90	4.3	
91	4.5	
92	4.4	
93	4.5	
94	4.4	
95	4.3	
96	4.6	
97	4.6	
98	4.5	
99	4.2	
100	4.6	
101	4.7	
102	4.4	
103	4.4	
104	4.3	
105	4.5	
106	3.9	
107	4.4	
108	4.3	
109	4.3	
110	4.1	
111	4.4	
112	4.6	

第3章 健康及び安全

	総合 ポイント	考察
113 嘱託医と歯科医による定期的な健康診断を行い、その結果を保護者に伝えている。	5.0	<p>日頃から嘱託医との連携を図りながら、必要に応じて助言をいただくなど、密な連携が取れている。検診や予防接種の大切さを保護者に推奨している。</p> <p>事故や怪我が発生した場合、落ち着いて、正確に対応が出来るよう、マニュアルに沿って実施している。</p> <p>発生後、その案件については、状況確認、分析、再発防止策を考察し、環境改善や意識改善に努めている。</p>
114 清掃薬品・消毒薬などは、鍵のかかる場所または子どもの手の届かない場所で保管・管理し安全の徹底を図っている。	4.9	
115 検温は1日2回（午前・午後）を基本とし、必要に応じて随時行っている。	4.9	
116 午睡の状態（呼吸、顔色、嘔吐、汗）を常に観察するとともに、SIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している。	4.8	
117 家庭からの連絡帳の記入を毎朝見て、睡眠時間、授乳の時間等、必要事項のチェックを行っている。	4.8	
118 身長・体重などの定期的な計測の結果を、保護者に文書で伝えている。	4.9	
119 身長・体重などの定期的な計測から子どもの発育状況を把握して、必要な時は肥満・やせの状態をグラフで記録している。	4.6	
120 一人一人の子どもの出生時の状況、その後の発育・発達などを細かく把握している。	4.2	
121 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状況等に応じて保護者に連絡するとともに経過を記録している。	4.9	
122 高熱、脱水症、呼吸困難、痙攣といった子どもの症状が急変した時や、事故など救急対応が必要な場合の対応について周知している。	4.6	
123 救命処置ができるように普通救命講習を受講している。	4.5	
124 予防接種は、標準的な接種年齢のうちに接種するのが望ましいことを保護者に伝えている。	4.4	
125 感染症が発生した際には、口頭及び文書や掲示板等で保護者に伝えている。	4.9	
126 登園停止基準については、意見書や登園届を元に、入所児等に保護者に説明している。	4.9	
127 保育所において薬を与える場合は、医師の指示に基づいた薬に限定し、その際には保護者に病院名・薬の種類・内服方法を具体的に記載した薬依頼届を持参してもらっている。	4.9	
128 嘔吐物・便などは迅速かつ的確に処理、消毒を行い、その際、マスク・使い捨て手袋などを用いて二次感染の予防に努めている。	5.0	
129 火災や地震・水害発生に備え、緊急時の対応についてマニュアルを作成し、想定した避難訓練を定期的実施している。	4.9	
130 事故や災害に適切に対応するためのマニュアルがあり、正しく理解し行動できる。	4.8	
131 施設の安全点検を定期的に行っている。	5.0	
132 戸外散歩に行く際は、事前に散歩経路や散歩先について異常や危険性がないか点検し、記録をつけている。	4.5	
133 子どもが危険な場所、危険な遊びがわかり、安全に気を付けて行動するよう指導している。	4.6	
134 事故防止のためにヒヤリハットとした出来事を記録し、分析して事故予防対策に活用している。	4.7	

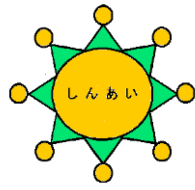
135	食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については全職員に周知されている。	4.5	給食の調理過程では、食の安全に努め、衛生管理を徹底している。 除去食に関しては確実に提供できるように、職員同士が連携し、声掛けなどを通して、安全確認し、提供することを大切にしている。 もしも誤食が起きてしまった場合も想定し、マニュアルに沿って報連相や、適切な対応を行えるようにシミュレーションをしておくことも大切。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、給食は基本的に熟食を実施している。その中で、食材を味わい、おいしくご飯をいただく姿が見られる。
136	食中毒発生時に原因究明が行えるよう、検査と記録を取り保管している。	4.9	
137	子どもが調理体験をする場合は、衛生・安全面での事故を防止するため、クッキング段取り表などを作成し周知徹底している。	4.9	
138	子どものアレルギーに関して、入園時に保護者から十分な聞き取りを行い、職員全員が把握するよう職員会議等を通じて連絡を取り合っている。	5.0	
139	除去食を提供する場合には、間違いがないように個別のお盆やトレーなどで分け、調理師同士や保育士と確認している。	5.0	
140	小児科医やアレルギー専門の医師の指導を受け、「アレルギー疾患生活管理指導表」に記入してもらい、アレルギー除去を行っている。	4.9	
141	保育者は食育の計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解している。	4.7	
142	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように、雰囲気作りなど工夫している。	4.7	
143	年齢に応じた形態でそれぞれの食事時間に合わせて配膳し、適温給食を実施している。	4.9	
144	自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つよう心掛けている。	4.7	
145	あいさつの意味を知らせ、「いただきます」「ごちそうさま」と感謝を持って食事ができるように努めている。	4.8	
146	ゆとりのある食事の時間を確保し、食事する部屋が温かな親しみとくつろぎの場となるように遮光やテーブル、椅子、食器、食具、また調理室や保育室などの環境に配慮している。	4.7	
147	偏食や好き嫌いがある子への対応を園内で話し合い、共通理解している。	4.5	
148	偏食や残さず食べることを直そうと、過度に叱ることがないように配慮している。	4.7	
149	個人差や食欲に応じて量を加減できるようにしている。	4.8	
150	子ども達が育てた収穫物などを調理し、食材への関心や食べる意欲を育てている。	4.9	
151	その日の昼食の食貝具などを、必要に応じて保護者に知らせている。	4.9	
152	年齢、月齢に応じた食事の量や形態（固さや大きさ等）を理解し、一人ひとりの成長に応じた食事を提供している。	4.9	
153	旬のものや季節感のある食材を使用し、年中行事と関連づけて食文化に興味を持たせている。	4.9	

第4章 子育て支援

154	保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有している。	4.9	総合 ポイント 考察 日頃から、保護者とのコミュニケーションを大切に し、より良い関係づくりに努めている。これからも、 送迎時などを通して、更にコミュニケーションを深め ていくことを大切にしていきたい。
155	保護者懇談会や保育参加などの機会を通して、子育てについて保護者と共通理解を深めたり、保護者同士の交流の場を設けたりしている。	4.4	
156	保護者の思いを受け止め、様々な内容の相談・依頼に適切に対応している。	4.9	
157	保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけている。	4.8	
158	常に保育に関する情報収集や技術向上を心掛け、専門家の自覚を持って保護者にアドバイスができる。	4.7	
159	送迎時やおたより帳などでの保護者と日常的な情報のやり取りを大切にしている。	4.8	
160	必要に応じて保護者との個別面談を行っている。	4.9	
161	あなたの保育に批判的な保護者に対しても、丁寧に意見や要求を受け止めようとしている。	4.6	
162	保護者からの相談内容によっては担任の保育士がすべて対応するのではなく、主任・園長などが対応している。	4.9	
163	虐待を疑われる子どもの情報を得た場合、速やかに主任・園長に報告し、要保護児童対策地域協議会や児童相談所などの機関に照会、通告を行う園の体制を理解している。	4.9	

第5章 職員の資質向上

164	あなたは保育士としての人間性や倫理観を高めるために、常に新しいことにチャレンジし、自己研鑽している。	4.1	総合 ポイント 考察 園内研修やキャリアアップ研修などを通して、人間 性を磨き、専門性を高めていく機会を設けている。 学びを通して、一人ひとりが意欲的な気持ちで保育 に取り組むことができるよう、今後も、研鑽に努めて いきたい。
165	施設長は一人一人の職員の資質の向上、及び職員全体の専門性の向上を図るために自己評価や保育所内外の研修を実施している。	4.5	
166	研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技術の向上に努めている。	4.4	
167	身だしなみ（爪、マニキュア、髪型、髪の色、まつ毛、カラーコンタクト、ピアス等）の清潔感を意識している。	4.7	



(2018.4.1 改訂版)